

海に届く頃

始まりを特に覚えてはいないけど親友がいることの幸い

古い記憶 植物園の噴水にずっといた気がするフラミンゴ

生徒会会長でさえ火遊びをしたことはある 夏になったら

田舎者、そう言われればそうでしかないがザリガニ見たことがない
丘の上の小さな学校で過ごした 四階からは海に届いた

進学のために海のある街から海まで遠い街に行き着く

アンパンマンと逆っぽいけど、海街で生きていたから濡れると強い
潮風の聞こえる快速列車まで三〇分と微妙に遠い

快速に乗れば朽ちるまで咲いているハマヒルガオの見える窓際
就職のために北海道を出る「怖くないの？」と聞かれはしたが

痛いほどの寒さと別れてから着いた桜の咲いている春日部市

春はあけぼの 国道沿いを自転車走って見える朝日のあわい
エアコンがあることに感動したが、ゴキブリにまだ出会えていない

意外にもスーパ―にラム肉があり半額になるのを待っている
いつまでも春が続けばよかったがそもそも季節感がわからない

梅雨明けが観測史上最短と聞いたけどちつともわかんない

雨模様ってみずたまのこと指している そう思っていたお手軽五歳
わたしにも五歳児だった頃はある写真の一つも出てはこないが
二四にもなってロマンが好きですがずっとお喋り言葉に弱い
サービスは嬉しいけれど出血は怖いしそこまでしなくていいよ